

3月定例教育委員会 会議録

- 1 開催日 平成26年2月27日(木)
- 2 開催場所 教育委員室
- 3 出席した委員 神吉委員長、吉田委員、桃田委員、森委員、石堂教育長
- 4 出席した職員 松尾教育指導部長、大西教育総務部次長、諏訪教育指導部次長、小林教育総務課長、西田学務課長、坂根社会教育・スポーツ振興課長、日浦学校教育課長、森山青少年育成課長、石川教育研究所長、岩坂文化財調査研究センター所長、田野少年自然の家所長、藤井中央図書館長、中塚教育総務課副課長
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事の要旨
 - 開会 午後1時55分
 - 会議録署名委員指名のこと
神吉委員長、森委員に決定
 - 2月定例教育委員会会議録報告承認のこと
(事務局より会議録朗読報告)
承認
 - 会議公開の可否決定のこと
協議事項7「平成25年度全国学力・学習状況調査の公文書不開示決定に対する不服申し立てについて」は非公開とし、他は公開することに決定

(協議事項)

1 平成 25 年度 3 月補正予算に係る意見について

(教育総務部次長より 説明)

原案可決

委員： 非常勤職員報酬の減額について、減員があったとのことだが、職務の不執行は発生していないか。

事務局： 減員の理由については、幼稚園の特別支援ルームの設置数が当初見込みより減少したことによる教諭の減員等によるもので、職務は適切に行われている。

2 平成 26 年度当初予算に係る意見について

(教育総務部次長より 説明)

原案可決

委員： 社会教育費について、生涯学習という言葉がたくさん出ているが、社会教育という言葉はあまり使われないのか。

事務局： 本市においては公民館を生涯学習推進の場としていることから、生涯学習という言葉を使っている。事業については、社会教育も含めて行うという思いで進めている。

委員： 社会教育法に基づいて、事業を展開して欲しい。生涯学習の中に社会教育が埋もれてしまっている印象がある。市だけでなく、県レベルで社会教育と生涯学習に対する議論を進めて欲しい。

委員： 加古川市では、予算の「項」として社会教育費を掲げている。事業を目的別に区分したところ、生涯学習という言葉が出てきているが、社会教育費についても措置しているところである。

委員： 学校園の耐震化は 26 年度で終わるという理解で良いか。

事務局： 建物躯体の耐震化が完了する。

委員： 躯体以外はいつ完了するのか。

事務局：平成 27 年度に完了させる予定である。

当初は平成 26 年度末での躯体の耐震化のみを目標としていたが、東日本大震災の後、体育館の吊り天井などの非構造部材の耐震化を平成 27 年度末までに完了させるよう文科省より通知があった。

躯体の耐震化は 26 年度末で完了し、非構造部材についても 27 年度末に完了させる予定である。

委員：市民へ向けた発信方法については、分かりやすいように工夫してほしい。

ユニットに関する大きな事業を検討してもらえないか。1 中学校区に 1 公民館ができれば、中学校長と公民館長の連携がより深められるのではないか。

事務局：平岡地区と山手地区において、一部小学校と中学校の校区が異なる状況はあるが、現状でも中学校と公民館の数は一致している。委員の意見にもあるように、学校と公民館の交流は引き続き深めていきたい。

委員：社会教育と学校教育の充実について、長期的な事業を検討してほしい。

事務局：平成 27 年度に教育ビジョンの改定を予定している。その中で、子ども子育て関連について検討する必要がある。小中学校、幼稚園、さらには保育園との連携を踏まえながら、委員の意見についても検討していきたい。

3 附属機関の設置及び運営に関する指針の改正について

(教育総務部次長より 説明)

原案可決

4 平成 26 年度加古川市立学校教育職員研究・研修計画について

(教育指導部次長より 説明)

原案可決

委員： 研究発表会を見学させてもらった。時間が短いように感じたため、もう少し時間を長くして質問の時間をとることや、会場を増やして、一つの発表の時間を確保するなどの工夫はできないか。

また、研究成果の冊子について、過去の事例を閲覧することはできるのか。研究とは、前回の成果を上回ることが必要。研究成果を蓄積して行ってほしい。

事務局： 過去の研究成果については、研究紀要としてまとめており、教育研究所で閲覧でき、貸し出しも行っている。また、毎年学校へも送付している。

委員： 発表時間の余裕はつくれるか。

事務局： プレ発表を実施するなどして時間の短縮について努力しているところである。会場確保等については、今後の課題としたい。

委員： 研究成果はどれくらいで出てくるのだろうか。

事務局： 発表者については、よく紀要を読み研究しており、すぐに成果がでている。発表者以外への波及が課題と考えている。

委員： 是非、研究成果を広めてほしい。

委員： 法定研修以外の研修参加について、ポイント制のような参加者へメリットを与えるようなものはあるか。

事務局： 特に行っていない。参加者には研究発表等を通じて自信とやりがいを得てもらっている。

委員： 積極的な参加を促すきっかけとして、ポイントのような目に見えるものがあればよいように思う。また、養護関連や医療関連など、学校現場以外で様々な研修を受講された内容を校内で伝達する取り組みがあればいいのではないか。

5 「加古川市スポーツ振興基本計画アクションプラン（後期）」の策定について

（教育指導部次長より 説明）

原案可決

委 員： アクションプラン策定の工程はどうなっているか。

事 務 局： 平成 20 年 3 月に加古川市スポーツ振興計画が策定された。平成 24 年に前期の中間評価を行い、平成 25 年から平成 29 年を後期として、平成 29 年に数値目標を達成できるようアクションプランを策定するものである。

工程としては、本日の教育委員会での議決を受け、議会に報告した後、進捗管理を行いながら、スポーツ審議会等で検討をしていく。

委 員： 総合スポーツクラブでは会員数が減少しているが、どのようにして加入推進していくのか。

事 務 局： スポーツイベントでの PR、例えばスポーツクラブから指導者として教室の運営に携わることや、また、クラブハウスを地域に開放して地域の人々の利用に供することなどについて、毎年評価し、進捗管理することとしている。

委 員： バンディオンセ加古川の選手が学校園にサッカーの指導に行くことなどは可能か。

事 務 局： 地域スポーツの振興において、バンディオンセ加古川に協力してもらうことは可能と思われる。すでにバレーボールでは Vリーグが中学生を対象に指導も行っていることから、検討していきたい。

委 員： ネットワーク会議を活用して、体育協会・スポーツクラブ・スポーツ推進委員の連携を図ってほしい。それぞれの組織の役割を考え、スポーツ基本計画の理解を求める機会を設けるなど、教育委員会からも働きかけをしてほしい。

事 務 局： 計画は教育委員会で策定したものであるが、市長部局のウエ

ルネス推進課とも協力しながら、進めていきたい。

委員：市の計画は市民の底上げに重点をおいていると思うが、優秀な選手へのサポートのようなものはあるか。

事務局：国でも東京オリンピックに向けて検討中であり、中高生の育成への流れはあると把握している。一方、市のアクションプランの目的は市民の健康促進であるため、後期は「する・みる・ささえる」について、並列から連携し、好循環を創出して、加古川のスポーツ文化を育てる視点へと改定している。

委員：健康促進としては、これで良い。アクションプランとは別で、ピンポイントの人材を支えるという考え方もあっていいのではないかと思う。

委員：国の体育協会の3本柱は、競技者育成・生涯スポーツの推進・障がい者スポーツの推進。市の体育協会も同様。

また、スポーツクラブが目指すところはヨーロッパのプロスポーツクラブも内包するようなスポーツクラブである。ネットワーク会議を活用して、市民スポーツの中で競技者を育成できるような仕組みを検討してほしい。

委員：市の立ち位置として、様々な議論がある。有名な選手が出てきた場合、個人へ金銭面のサポートをするのか、後援会を立ち上げるのか。アマチュアかプロかという点では、プロは公費によるサポートは不要という考え方もある。また、アマチュアについて、加古川市では有名になってから後援会を立ち上げているが、競技者としては、アマチュアの底辺にいるときこそ、支援を必要としている。プロになってから、有名になってから、の支援ではなく、その前段階での支援のあり方を関係団体と協議しながら考えていきたい。

委員：勝てる選手を育てようとするのと、市民スポーツの底上げの両立は難しい部分が多い。バランスを取りながら進めてほしい。

6 加古川市指定有形文化財の指定について

(教育指導部次長より 説明)

原案可決

委員： 石井の清水について、教育委員会の説明書きの看板があるが、指定文化財でないものに、看板を設置しているのか。

事務局： 重要な史跡については、指定文化財の指定がなくても、設置している場合がある。

委員： 指定文化財になれば看板は建て替えるのか。

事務局： 予算の関係もあるが、新調したいと考えている。

7 平成 25 年度全国学力・学習状況調査の公文書不開示決定に対する不服申し立てについて

原案可決

(議事を非公開とする)

◎ 次期臨時教育委員会予定日のこと

3月25日(火)午後4時～ 教育委員室で開催することに決定

○ 神吉委員長諸報告

(1) 兵庫県市町村教育委員会連合会について

2月14日(金)に常任理事会が開催され、出席した。

○ 教育長諸報告

(1) 平成 26 年度当初予算について

26 年度当初予算については、事務局説明のとおり。今後とも、ユニットの連携や、いのちと心サポート事業など、ソフト面の充実に努めながら、施設面での課題にも対応していかなければならない。

(2) 平成 26 年第 1 回市議会について

3月4日、5日に代表質問がある。3会派から質問がある予定。

○ 教育総務部長報告

(1) 第1回加古川市通学路安全推進会議の報告について

加古川市立小学校の通学路における交通安全の確保に向けた継続的な取り組みを推進するため、2月20日（木）に第1回加古川市通学路安全推進会議を開催した。

以上、1件について報告

○ 教育指導部長報告

(1) 平成25年度（第6回）社会教育委員会議の報告について

2月14日（金）に勤労会館にて開催された。

(2) 平成25年度中学校卒業式への教育委員会出席予定者について

(3) 第26回加古川カップ綱引大会の結果について

2月23日に西神吉の総合体育館で開催された。小学生の参加も多く、市内16校が参加した。

(4) 「学校生活に関するアンケート」（アセス）ハンドブックについて

アセスの基本的な使用方法についてまとめた冊子を作成・配付した。

(5) 少年団情報紙「ふれんず」（第31号）の発行について

全小学生に配付し、中学校に掲示した。

以上、5件について報告

○ 閉 会 午後4時37分